

# NJ素流協 News

令和8年7月10日

第258号

令和8年7月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6（農林会館5階）  
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <https://www.soryukyo.or.jp>

## ノースジャパン素材流通協同組合 令和8年度地区別組合員会議開催

NJ素流協は令和8年度地区別組合員会議を開催しました（各会場の出席者数は表のとおり）。

6月19日の久慈会場の開会にあたり、鈴木理事長が次のとおり挨拶しました。

令和8年度地区別組合員会議出席組合員数

| 会 場       | 出席組合員数 | 出席人数 |
|-----------|--------|------|
| 6/16 大崎市  | 14     | 15   |
| 6/19 久慈市  | 15     | 19   |
| 6/23 八幡平市 | 17     | 18   |
| 6/25 七戸町  | 16     | 20   |
| 6/30 住田町  | 24     | 29   |
| 7/2 秋田市   | 11     | 11   |
| 計         | 97     | 112  |

「お忙しい中お越しいただきありがとうございます。総会でもお話ししたとおり、昨年度の取扱数量が過去最高の約60万㎡となりました。組合員の皆様のご協力に深く

感謝申し上げます。さて、皆様ご存知の通り、山の丸太を含めた木材製品は市況商品と言われている、希望価格で売ることができず価格の乱高下が続いています。昨年度も工場で様々な情勢変化があり、不均衡な状態でしたが、私なりに振り返ると、戦後、毎年毎年、ずっと、丸太・木材製品は良かったり悪かったりを繰り返しているのが木材産業の状況ではないかと思えます。これを乗り越えるためには、常に様々な情報を確保して、山の木の価値を無くさないようにすることが必要です。林業と農業の最大の違いは、木を植えた人と伐る人は違うということです。父母、祖父母が植えた木を、今、一生懸命活用しようとしているところで、彼らの努力に報いるように、我々も頑張っていきたいと思っています。今年度も何卒よろしくお

願い申し上げます。」



鈴木理事長挨拶（久慈会場）

### 1. 話題提供

「令和8年度地区別組合員会議

今年度の話題」

▼今年度の林業・木材産業に関わる経済情報トピックス

1. ホルムズ海峡問題は、各種石油関連製品が値上がりし、住宅・建築のコストアップで、着工の遅れ・減少は間違いなく起こると思います。今、合板工場の接着剤不足問題が大きく危惧されていますが、それよりは値下がりした合板の製品単価をもう一度戻したいという意味での価格交渉の色彩があることが今のポイントだと思います

す。合板工場の製品在庫は仮需によって減少しているため、生産自体はこれから回復するのではないかと考えています。

2. ロシア・ウクライナ問題の解決ならず。欧州材の黒海・スエズも厳しく、喜望峰廻りは運賃がアップします。円安もあり、WWの管柱とロシアアカマツ小割等は、国産材に代替が進むということで、東北各地の集成材工場で、スギ集成材のフル稼働が続いているのはこの影響が大きいと思います。

3. カナダ・アメリカの関税問題で、カナダの製材工場は停止・減産に動いています。日本向けはJソートと言われ、品質が高いのでそれより低品質のアメリカ向けのものが動かないと入荷は減少し、結果、2×4用ディメンションランバーの国産材代替が加速中です。新工場設立や、大手工場の2×4進出が見られます。これから注文が増えるのではないのでしょうか。

4. 合法証明の、海外輸入木材への拡大が始まりました。東南アジア

アからの輸入に影響が出ています。特に、アピトン、ケンパス等南洋材の堅木利用業者は代替が必要になっていて、枕木、トラックボディ材等への影響が大きいです。クリ、ヒバ等の堅木の見直し需要もあると思います。

5. 円安の加速化、日本産ウイスキーブーム等から、国内の家具・フローリング業界等の広葉樹ブームが継続。旭川に洋酒樽（ナラ利用）専門工場が新設されることも大きなニュースだと思います。

6. 輸入チップに頼る製紙業界は、国産材シフトをかけますが、その時々々の経済市況での変動が激しく、先行き不透明です。ペーパーレス時代ですが、円安のため、日本国産チップで作ったパルプを輸出するのが今の流れです。

7. 梱包材等のラジアータパインは、NZ・チリ等から中国への輸出が集中し、日本市場向けは減少しているため、国産材シフトが継続すると思います。脱プラ需要もあります。

8. インドネシアの大水害の原因が、パーム油用のヤシ農園開発による森林伐採だと批判が出ています。このPKSの拡大批判により、PKSに頼っていたバイオマス工場は、今後輸入が減少するのではないのでしょうか。

9. 大手ゼネコンはほぼ全社、木材利用促進協定締結を国と結んでいます。高層ビル木造化で大量発注があると、特需の可能性も非常に大きいです。

10. 今年度からカーボンスティックに地中杭が認められたことで、土木用杭丸太の需要は拡大すると思います。

#### ▼現状と見通し

◎冬伐り丸太を集荷したい大型工場は、土場満杯を目標にしているため土場いっぱいいる工場が多いですが、6月から大手素材生産業者が国有林請負に入ると7月以降は供給減へ。

◎集成材工場は円安、船便流通経費増もあり、国産材代替の需要拡大でフル稼働が続く見通しです。

・管柱50%WW↓スギ集成へ  
・梁桁90%RW↓カラマツ集成へ

新設住宅着工戸数が減少しても、いかに外材を国産材に切り替えるかがポイントです。

◎合板工場の減産が続きますが、接着剤問題よりかは製品単価値上げ目的？ただし、現在仮需で製品在庫は急減しているため生産増は必要。問題は合板の自給率で、構造用合板90%、複合床板基材合板40%、型枠合板10%ですので、構造用に偏っている合板メーカーは他の合板にも生産をシフトすることも重要だと思います。

◎針葉樹製材工場は丸太不足多数状態で、合板・集成材工場、バイオマス工場へ流れています。特に高齢級化粧材用80(70)年以上は、単価が下がったため、伐採意欲が低下して工場丸太不足が激化しています。また、円安で、間柱・小割材が外材から国産材転換で3m材の受注が増え丸太不足になると思います。

◎梱包材・パレット材は、プラパレットの価格上昇で木材に対する需要が増大、ただし、梱包材の材料は特別な長さのものが多く、必要な材長での対応がベストです。

◎土木用材は、東北局の方針で、大船渡山火事被害材利用で土木発注増となります(素流協ニュース256号トピックス参照)。杭材カーボンストック評価で大手ハウスメーカーも利用へ舵を切りました。カラマツ・スギともに需要が大きくなるのではないのでしょうか。8〜14cmの細い丸太が重要です。

◎チップ用材

- ・バイオマス用↓6月に大きな工場の定期点検が重なっていますが、新規稼働も多いため、秋以降に需要が更に増大すると見込んでいます。
- ・製紙用↓円安で輸入チップ価格が上昇していますが、逆にパルプのまま輸出で利益を得ることができず。国産材チップへ転換を図ると思いますが、製紙業界の方針は安定しません。

- ・キノコ用↓明らかに不足していますが、キノコの単価が全く上がっていないので、値上げ困難で難しい状況かと思っています。ただ、規格が緩やかですし、樹種が決まっているので樹種別単価に注目したいです。



組合員会議の様子(大崎会場)

◎広葉樹用材はウイスキー樽ブームが続いているため、まだまだ値段は高騰したまま続く見通しを立てています。ウイスキーの聖地イギリスでは、サントリーのウイスキーが大ブームです。

▼今年度 組合員にとって丸太探材・供給での重要点

◎アカマツは、松くい虫被害地域の伐採がストップになりました。不足感はあるため安定供給が必要です。伐採後即納入(最大でも2週間以内)がポイントです。

◎カラマツの一定の需要は継続(ロシア・ウクライナ問題が終了しても今さら戻らない)。2・15m、2・4m、2・9m、3・1m等の米マツ代替の特殊材の長さの注文に協力をお願いします。

◎スギは集成材・LVL・製材は安定していますが、地域によってバランスを見て、2m採材比率を下げなければならぬ場合もあります。ご相談ください。

◎大型バーカーを入れた工場を認識することが重要です。丸太の納入制限の最大のポイントがバーカーだからです。現在80cmまで剥ける工場は、2mが1工場、4mが1工場(検討中1工場)です。皮つき製材所で2m100cmまでの工場もあります。太すぎるチップとは限りません。

◎スギ・カラマツの14〜16cmの製

材用と8〜14(10〜14)cm杭材需要は継続。特に、除間伐なしの山は宝の山なので要相談していただければと思います。先端部を杭材にする場合はハーベスタ・プロセスで2回枝払いをお願いします。

◎スギの3m、3・65mのB材が出て、A材向け製材工場に納入できない時の納入工場があります。ご相談ください。

◎あまり出材しないトドマツ、ドイトウヒもご相談ください。サワラ、ネズコは特定の地域で需要があります。

◎広葉樹用材の高値は続きます。特に、コナラの太物があつたら、2・2mでなく、ウイスキーの樽に使えるため2・4mの採材をおすすめします。広葉樹の採材がわからない組合員さんには現地指導したいと思います。買い手業者さん立会での直売も検討したいと思っています(2m未満でも用材可)。

◎ナラ枯被害木利用に各県庁が方針を変更しました。詳しくは後日提供予定。

- ◎サワグルミ、ハンノキ、シラカバ等かつて有用広葉樹(高値つく)でなかった樹種も人気が有ります。
- ◎キリ、エンジュ、ウルシ等、今の時代売れないかな?という樹種も必要です。
- ◎ブナ、ヤマザクラ、ナラ等原料材でも単価差がつくものを認識して要相談。
- ◎東北は冬寒いので、工場は冬場熱量高い樹種が必要です。乾燥に使う熱量が必要なので、冬場だけ合板・集成材工場でカラマツ、アカマツが欲しい。バイオマス用でカラマツ、アカマツ、広葉樹が欲しいというところは結構あります。
- ◎製紙用はバーカーで皮むきが必須なのでバイオ、おが粉用は皮つきのまま利用されます。よって曲がりとか最小径級が違うので、分からない場合は要相談。
- ◎免税軽油制度は利用率が低いと中止になってしまいます。是非活用と、使っていない知り合い業者にもお勧めを。
- ◎短コロ、末木枝条といったD材

を無駄にしない。林道脇で販売するのもおすすめです。

◎高性能林業機械、運材トラックの価格が高騰しているので補助金の利用をおすすめしますが、単なる買い換えでは申請が通らないので相談いただければと思います。当初の予算が満杯でも、補正予算が毎年あるので県庁にいつでも申請しておくことが肝心です。

◎不足している工場は、カレンダーや希望アンケートに書いてありますが、カレンダーの納入日が広く空いているかを見れば明白です。

次にどの樹種、太い、細い立木伐採に入ったらいいのか?  
行き先なくなった丸太、普段無い樹種、とても質が良い丸太等:  
ありましたら、とにかくNJ素流協にご相談ください!!

## 2. 令和8年度事業計画

詳しい内容は先月号の特集をご覧ください。

## 3. 令和8年度主要事業

### ▼再造林基金事業の推進

NJ素流協は岩手県と青森県の



組合員会議の様子(八幡平会場)

再造林事業に協力しています。

岩手県の事業について、NJ素流協は、「岩手県森林再生基金」の事業を行う機構の一員として、原木出荷者(組合員)、原木購入者の方々の協力金を徴収し、当組合の協力金と合わせて基金に積み立てています。

また、青森県の事業について、「青い森づくり推進基金」に対して、流通業者として協力金の拠出を行っています。

機構との協定締結、協力金拠出に引き続きご協力をお願い申し上げます。基金の助成もご活用ください。

さい。

### ▼森林再生に関する事業

組合員による再造林を促進するため、再造林経費の一部を助成する、当組合独自の再造林促進奨励事業を引き続き行います。

また、仙台森林管理署との協定に基づく海岸防災林「ノースジャパン100年復興の森」再生活動について、今年度からは本数調整伐を実施し、そこで発生した末木枝条等を買取り取る活動を検討しています。日程が決まりましたらお知らせいたします。活動へのご協力をお願いいたします。

### ▼研修会等の実施

①林業経営講座、現地視察研修、林業講演会等

林業経営講座、現地視察研修、林業講演会等、今年度も計画的に実施予定です。昨年度は当組合主催で初めてニュージーランドで海外視察研修を実施しました。この視察研修の報告会及び海外の林業情勢の勉強会・意見交換会を、初回の林業経営講座として企画を進



組合員会議の様子（七戸会場）

めています。

## ②自己研鑽研修助成事業

組合員の役職員等が技術・知識の向上を目的として研修会に参加した場合や外部講師を招聘して社内研修を実施した場合等に費用の一部を助成する自己研鑽研修助成事業を今年度も実施します。

## ③車両系木材伐出機械等の運転の業務に係る特別教育

伐木等機械の運転業務、走行集材機械の運転業務、簡易架線集材装置等の運転業務の3区分について、林災防各県支部で開催する特別教育講習会を定員漏れ等により

受講できない組合員が多数いる場合に、N J 素流協として特別教育を開催しています。

まずは、林災防各県支部が開催する研修会にお申込みいただきまずようお願いいたします。

## ▼納入開始届等について

N J 素流協は、納入開始届を用いて「クリーンウッド法」及び「林野庁ガイドラインに基づく合法証明」に必要な事項を確認しています。組合員の皆様には改めて、納入開始届、伐採根拠書類の事前提出等をお願いいたします。

## ▼伐採・搬出・再造林作業ガイドライン

伐採契約・準備から更新・後始末の各段階で取り組むことが望ましい事項について取りまとめた「伐採・搬出・再造林作業ガイドライン」

### N J 素流協ホームページ

「伐採・搬出・再造林  
作業ガイドライン」



ン」を策定し、ホームページで公開しています。ぜひ作業の参考にご活用ください。

また、「伐採搬出・再造林ガイドライン全国連絡会議」と連携をとってサミット等を行っています。ガイドラインの取り組みへのご理解とご協力をお願いします。

## ▼森林経営管理法に基づき都道府県が公募・公表する民間事業者

北海道・東北各県では「意欲と能力のある林業経営体(者)」または「経営管理実施権の設定を受けることを希望する民間事業者」という名称で実施されています。

登録を受けると、国庫補助事業による支援対象となったり、金融における利子助成等のメリットがあります。

新規登録・更新申請の際は、添付書類として行動規範が求められますが、所属団体の行動規範を活用することもできるので、N J 素流協の行動規範をご活用ください。

また、法改正の影響で共同販売に関する協定書等が必要な場合が

あります。ぜひご相談ください。

## ▼技術指導に関する事業

### ①林業アカデミー研修受け入れ

「いわて林業アカデミー」サポートチームの一員として組合員の皆様の協力のもと研修を実施しています。研修生を採用する考えがあり、就業体験研修の受け入れに協力いただける事業体を随時募集しています。

### 【研修期間】

- 10月20日～10月23日
- 11月24日～11月27日
- 11月30日～12月4日

受け入れを希望する場合はご連絡ください。

### ②林業用種子(カラマツ)確保協力

カラマツ種子の不足に対応するため、カラマツ球果採取と種子の提供に引き続き取り組みます。

種子の採種期間9月1日～中旬までの時期に合わせて伐倒・枝落としが可能で、綺麗な緑色の球果が多く付いている立木があります。たら情報提供をお願いいたします。

## ▼東北地区原木トラック運送協議会

東北6県の原木運送事業者30社で構成された協議会で、N J素流協が事務委託を受けています。国産材原木等の運送事業の健全な発展を促進し、事業の社会的、経済的地位の向上を目的に活動しています。主に、林野庁、東北森林管

## 第6回げんき森林モリ

### フェスティバル開催!!

当組合青年部会が主催する森林・林業普及啓発イベント「第6回げんき森林モリフェスティバル」を以下のとおり開催します。

本イベントはいわての森林づくり県民税を活用して実施するものです。

詳細につきましては、当組合ホームページ及び青年部会インスタグラムに掲載いたします。

【日時】令和8年8月2日(日)

9時00分～14時00分

【場所】岩手県民の森

(岩手県八幡平市)

理局、納入先工場、トラックメーカー等に要望活動を行っています。

## ▼TEAM森林再生大船渡

昨年の2月に森林火災が発生した岩手県大船渡市の森林再生を目指して川上く川下でチームを作り、6月12日に発足しました(トピックス参照)。

## ▼青年部会について

N J素流協青年部会は現在、51名で活動しており新規入会も随時受け付けております。

事業の目玉となる森林・林業普及啓発イベント「げんき森林(モリ)モリフェスティバル」を今年も開催します。

## ▼労働安全衛生関係

令和7年の林業による死傷者数・死亡者数はいずれも、前年と比較して減少しました。安全衛生の取り組みを引き続きお願いいたします。例年、チェーンソーによる伐木作業中の災害が多発していますのでこちらにも引き続きご注意ください。

## 「職場における熱中症防止の

### ためのガイドライン」

熱中症防止対策として、以下の体制整備、手順作成、関係者への周知については、労働安全衛生規則の改正に伴い、罰則付きで義務化されているものがあります。

## 《事業者の義務》

●熱中症の自覚症状のある作業員や、熱中症のおそれがある作業員を見つけた者がその旨を報告するための体制整備及び関係作業員への周知。

熱中症予防のための情報・資料サイトがあります。ガイドラインを参考に熱中症を防止しましょう



## 厚生労働省

「熱中症予防のための情報・資料サイト」



●熱中症のおそれがある労働者を把握した場合に迅速かつ的確な判断が可能となるよう、

①事業場における緊急連絡網、緊急搬送先の連絡先及び所在地  
②作業離脱、身体冷却、医療機関への搬送等

●熱中症の重篤化を防止するために必要な措置の実施手順の作成及び関係作業員への周知。

## ▼需要情報

### ①漆採り原木

国産漆の不足により、漆掻き用の原木を探しています。漆がまとまって生えている所がありましたら情報提供願います。

### ②「鳴子こけし」用ミズキ

伝統工芸品「鳴子こけし」の材料となるミズキが不足しており、こけし木地組合が一括購入しますので、冬伐りで出材できる方がいらっしやいましたらご連絡ください。

## ▼組合員の皆さまへのお知らせ

・事業の後継者育成を目的とした



組合員会議の様子（秋田会場）



組合員会議の様子（住田会場）

研修生を受け入れています。時期や期間等ご相談ください。  
・NJ素流協ホームページ内の「組合員紹介ページ」のリンク希望は

| 役職名   | 氏 名     | 所 属         |
|-------|---------|-------------|
| 会 長   | 野 呂 真 路 | 有限会社道又林業    |
| 副 会 長 | 波 紫 慎太郎 | 十和田燐寸軸木株式会社 |
|       | 砂子澤 元   | 有限会社砂子澤林業   |
| 幹 事   | 山 田 龍太郎 | 有限会社山一木材    |
|       | 大粒来 彰 太 | 有限会社丸大県北農林  |
|       | 斎 藤 大 渡 | 有限会社クレイワーク  |
|       | 天 間 陸   | 上北木材        |
| 監 事   | 山 中 崇 義 | 山中林業        |

表 NJ素流協青年部会 役員名簿（令和8～9年度）

NJ素流協青年部会は、6月6日、第8回通常総会を盛岡市で開催し、会員29名が出席しました。議事では、令和7年度事業報告

## NJ素流協青年部会 第7回通常総会を開催

## トピックス

お気軽にどうぞ！  
・女性の経営者・後継者のネットワークづくりを応援！希望者はお気軽にご連絡ください。

6月12日、岩手県大船渡市で、山火事被害木を有効活用し、大船渡の森林再生を目指す「TEAM森林再生大船渡」の発足記念式が行われ、発起人の1員でもある当組合からは鈴木理事長ほか営業企画部3名が参加しました。

これまでの、発起人が中心となり、山火事被害材の利用拡大を目指してPRを中心に活動してきましたが、この目的に賛同する複数の企業からの入会申込があり、発足記念式を挙げる運びとなりました。

出席者は、発起人の他に、新規加入者12社21名、協力者として岩手県・大船渡市の出席をいただきました。式典では、来賓として岩

及び令和8年度事業計画について原案どおり承認されました。

また、任期満了による役員改選が行われ、新役員8名が別表のとおり選任されました。

## TEAM森林再生大船渡の 発足記念式が行われました

手県知事（代理 砂子田林務担当技監）、洲上大船渡市長の出席をいただき、祝辞を頂戴しました。

式典の最後には、鈴木理事長が会の副代表として決意表明を行い、会員が一致団結して、被災した森林の再生に協力していくことを宣言しました。



発足記念式にて記念撮影。理事長は「父母、祖父母が一生懸命育てた木を有効活用しましょう！」と決意表明しました

## 広葉樹シンポジウムの 様子が林野庁SNSに 投稿されています

今年の2月24日に行われた「里山広葉樹利活用シンポジウム 森の彩を暮らしへ」の様子が、林野



庁のSNS公式アカウント(Facebook)及びXで紹介されています。当組合鈴木理事長の講演は6月10日に投稿されています。

各々の講演者にスポットを当てられた投稿では、YouTubeのリンクも掲載され、講演動画を閲覧できます。また、林野庁公式YouTubeのアーカイブからも閲覧できます。各SNSは、林野庁ホームページ下部にリンクがあります。ぜひご覧ください。

### マッチング事例紹介 ～日田市のお祭りの山車～

大分県日田市で約300年の伝統がある「日田祇園」は、全国山・鉾・屋台保存連合会に加盟する33団体とともに「日田祇園の曳山行事」として、国の重要無形民俗文化財及びユネスコ無形文化遺産に登録されています。

山車の車輪はアカマツの丸太を輪切りにして作られるため十分な太さが必要です。そこで、日田木材協同組合を通じたアカマツ供給

依頼に対し、林野庁や東北局等からの情報提供・マッチングもあり、下北の国有林から組合員さんが伐採し、納入しました。

径が80cm以上のアカマツは引き続き募集中とのことで、出荷希望等ありましたらNJ素流協営業企画部までご相談下さい。

## お知らせ

### 7月10日時点の樹種・材種の不足状況について

#### ●集成材用

スギ4m、3・65m材：製品の引き合いは強く、原木も制限なく納入可能

#### ●合板用

合板工場の減産が継続していて納入制限は続く(特にスギ)。出材量の少ないカラマツ・アカマツは制限なく納入可能。

#### ●製材用

製材用の原木は不足状況、特にスギ3m材、3・65m材の引き合

いが強い。

※気温が上昇しているため、虫害・青変菌の被害にご注意ください。伐採後は速やかにフレッシュな状態で納入いただけるようご協力ください。

### 6月30日付 退職の挨拶

#### 経営企画管理部

#### シニアマネージャー

野田 秀一

平成26年にノースジャパン素流協に入組してより12年の間、組合員の皆様をはじめ、林野庁、東北森林管理局、原木トラック運送協議会、林業機械メーカー、林業関係団体・行政関係、多くの方々から、林業の「楽しさ」や「面白さ」、それに限らず、「厳しさ」、「危険さ」など、自分が想像もしなかった多くをご教示いただきまして、心より感謝申し上げます。

在職した期間は、高性能林業機械の普及、木質バイオマス発電開始、カラマツバブル、新型コロナウイルス感染症、ウッドショックなど、林

業全体が転換期だったように思います。

今後は、今まで学んだことを、地元の里山に役立てていきたいと思っています。

本当に有難うございました。



野田さん、12年間  
ありがとうございました!!

### NJ素流協 夏期休業のお知らせ

下記のとおり休業いたします。

**休業期間：8月13日(木)～  
8月16日(日)**

休業期間中はご不便・ご迷惑をおかけいたしますが何卒よろしくお願い申し上げます。  
営業開始は8月17日(月)からとなります。



## ちよつと気になる木の話

120

## 林業界でも

## 今だに続く縦割り仕事

―せっかく育った木に深い思いを!!―

かつて、営林署長時代、「治山工事の工事現場への道路支障木を伐って用材の長さにして舗装道路脇に綺麗に積みみしたら工事評価点数上げるから」と話して、完了検査後に高値で販売した。

また、請負生産・立木販売箇所で、終了検査後に林地に残っている丸太や残材を2次処分という名前で再度販売していた(業者によっては本当に良い丸太部分だけ搬出して放置していたので。地拵え経費節約のためでもあった)。

さらに、工事や立木販売の中の銘木クラスは、テープを巻いて、別途素材生産経費を支払う契約を結び、銘木市で素晴らしい単価で売り払った経験がある。

さて、最近の状況を話してみたい。国道の支障木で巨木のネズコが伐採されたが、そのままだともったいないと、伐採した素材生産業者から連絡があり、署に委託販売依頼して急ぎよ販売を行ってもらうこととなった。もちろん、天然秋田杉やアカマツ巨木なら別途販売しているが、ネズコだと東北では価値が分からなかったからである。

新設林道・治山支障木は、事前に立木販売

にかけられる場合も多いが、伐採箇所は細長く傾斜角もあり、素材生産業の採算性は悪く不落になることがほとんどで、工事業者の工事費の中含まれると用材としての採材・搬出は行われず、工事箇所の横にただ適当に積まれていることがほとんどである。もったいないなあ。

最近頻発している豪雨災害の復旧工事だと尚更である。災害復旧目的なので仕方ないが、けっこう良い木が沢山ある。加えて、国道、県道、市町村道、林道の順に復旧なので、後半に行くほど2、3年後の工事となり、倒木は用材として利用できなくなっている。

国交省絡みで、巨大なダム建設とかだと、キッチリ素材生産されて有利販売されているが、小規模道路改修や倒木処理だと土建屋さん任せである。河川敷の流木対策の立木処理も発注されるが、河川敷からの搬出路問題とかは全く発注側で考えられていない(北海道開発局は一步前進しているかなあ)。電力の線下伐採は、一番の問題である。もちろん線下補償金を山主に支払っているの

で、伐採して放置しても問題はないと言えるが、線下まで伸びたとすると結構な樹高となっている。そして、この伐採には、素材生産を本業とする素材生産業者が請け負っている。もちろん、請負業として採算はとれているが、山主がせっかく植えた木としてはもったいないのである。

請負業者からも活用したいという声は聞かえてきている。電力会社は、木質バイオマス発電に投資している上に、丸太が集まらないで困っているところもあるのに、自ら関わっている丸太は放置である。「うーん、何か担当別の縦割りかな。」NJでも東北電力に行こうかな!!林野庁でも電気事業連合会(電事連)行くべきかな。

ここからが肝心である。森林保全部局の虫害対策である。東北では今、松枯れ、ナラ枯れが急速に北上中である。被害が出ると被害木の伐採対策を進めることに重点が置かれている。被害地域の伐採時期、被害木の運搬制限、薬剤処理で全てチップ化等々である。森林保全部局としては完璧だと言いたいかなあ。でも、ほとんど被害地が拡大していくのであれば、別の働きかけも必要である。

まずは、被害地に近く拡大しそうなエリアの山林所有者・素材生産業者への早期伐採の呼びかけである。「早く伐らないと被害木になり、お金にならなくなるよ。父母、祖父母が大事に育てた木の価値がなくなってしまう、申し訳ない」と神棚の前で謝らないといけなくなるよ」である(特に高齢優良木)。

そして、被害木の有効活用である。虫の拡散時期でなければ、辺材部は虫害でめだとしても、心材部は活用できる。大径木なら尚更である。巨木になったアカマツ、ナラは貴重である。ましてやナラ人気の今である!加えて、ナラ菌は在来種であり、元々普通に存在している。ある意味元気がなくなった老衰の色彩もある。東北以外の県では「ナラ枯れ被害木有効活用PT」が続々と立ち上がっている。被害木利用したいとの大企業もあり、CSRの色彩もある(大船渡山火事被害木利用も同じ動き)。

まとめると、森林保全部局だけの呼びかけは本筋ではない。木材利用部局も加わらないといけない。治山・林道部局も治山・林道の施設整備が完璧ならと自慢してはいけない。支障木活用の資源活用・木材利用部局との協同が必要である。国道拡幅や工業団地造成などは、土地転用部局だけでうまくいっただけでなく、処分する土地の上にある立木の価値向上も必要である。

結局、林業界でも治山・林道畑、森林保全部、木材利用畑と縦割りの組織人材となっている。オールラウンドプレイヤーになるべきと言っているのではなく、スペシャリストはスペシャリストとして育成し、業務を遂行するときは肩組んで合唱しようである。治山林道業界だけでなく、一般土木業界にも「木を大切に」の勉強会が必要かなあ。土木業界から素材生産業参入者講師がベストな作戦かも?ですね。

## 令和8年6月分の販売実績

| 樹 種  | 合板・L V L 用    |            |              | 製材・集成材・その他用   |            |              | 計             |            |              |
|------|---------------|------------|--------------|---------------|------------|--------------|---------------|------------|--------------|
|      | 当月出荷量<br>(m³) | 前月比<br>(%) | 前年同月比<br>(%) | 当月出荷量<br>(m³) | 前月比<br>(%) | 前年同月比<br>(%) | 当月出荷量<br>(m³) | 前月比<br>(%) | 前年同月比<br>(%) |
| ス ギ  | 11,641        | 86.3       | 100.1        | 19,168        | 130.9      | 109.5        | 30,810        | 109.5      | 105.7        |
| カラマツ | 5,727         | 126.1      | 72.3         | 489           | 157.2      | 161.2        | 6,216         | 128.1      | 75.6         |
| アカマツ | 805           | 31.7       | 76.6         | 128           | 134.4      | *            | 933           | 35.4       | 88.8         |
| その他  | 80            | 166.1      | 1,028.1      | 858           | 492.6      | 322.9        | 938           | 422.0      | 343.0        |
| 合 計  | 18,253        | 88.5       | 88.6         | 20,644        | 135.5      | 114.2        | 38,897        | 108.5      | 100.5        |

| 樹 種  | 燃 料 用        |            |              |
|------|--------------|------------|--------------|
|      | 当月出荷量<br>(t) | 前月比<br>(%) | 前年同月比<br>(%) |
| ス ギ  | 10,119       | 425.9      | 424.3        |
| カラマツ | 6,862        | 164.0      | 182.4        |
| アカマツ | 1,078        | 182.4      | 353.3        |
| その他  | 1,743        | 343.0      | 471.8        |
| 合 計  | 19,803       | 258.5      | 290.3        |

| 樹 種      | 今 年 度 累 計          |                     |           |              |
|----------|--------------------|---------------------|-----------|--------------|
|          | 合板・L V L 用<br>(m³) | 製材・集成材・その他用<br>(m³) | 計<br>(m³) | 燃 料 用<br>(t) |
| ス ギ      | 40,096             | 48,463              | 88,559    | 14,502       |
| カラマツ     | 14,088             | 1,859               | 15,946    | 14,533       |
| アカマツ     | 4,442              | 224                 | 4,666     | 2,333        |
| その他      | 218                | 1,414               | 1,633     | 3,011        |
| 合 計      | 58,844             | 51,960              | 110,804   | 34,379       |
| 目標達成率(%) | 23.5               | 24.9                | 24.1      | 28.6         |
| 計 画 量    | 250,000            | 209,000             | 459,000   | 120,000      |

注)\*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

## 【令和8年7月の需給動向】

- 集成材は欧州材の高値が影響し、国産材製品の引き合いが強まっている。この状況は当面続く見込み。
- 合板工場で心配された接着剤等の原料不足はほぼ影響がないものの、原料価格は高騰しており、コスト面で厳しい状況。
- 松くい虫被害地域における伐採が制限中のため、アカマツ原木の不足状況は当面続く見込み。

## 耳からウロコ

## エムウエーブ物語

ー長野オリンピックは  
スムーズに信州カラマツで？ー

1998年(平成10年)長野オリンピックの開会式が行われ、スケート会場となったのがエムウエーブである。屋根の形がMで波のように流れることからエムウエーブと命名された。木造つり屋根構造で、信州カラマツで作られ、1997年英国構造技術協会の特別賞を日本で初めて受賞した有名な建築物である。このエムウエーブは、長野オリンピック決定時から竣工までスムーズに建築されたのだろうか？

私の記憶をたどってみよう。ある時、日本木青連の人が訪ねてきた。私は、長野野の木青連の担当で、その人は、大阪企業で当時日本青年会議所に出向していたと記憶している。「木青連として、オリンピックスタジアムをカナダ材で造るのは反対派が多いのに、カナダ材利用を推進している者がいる。全国の仲間を集めて国産材でやるべきだ」とのことだった。当時、カナダ政府から、SPFと米ツガの関税に差があるのはおかしいとのこと。GATT提訴の前後だった。カナダ大使館には、カナダの木材団体COFIからの常勤出向者もいた時代である。

色々意見の分かれもあったが、信州カラマ

ツでの建設が決定し、あとは順調に進むのを待っているだけだった。ところが、信州カラマツで構造用集成材ならこの会社という有名会社が、建設工事を行うメインの大手ゼネコンと不仲になり、絶対ここには発注しないとなった。

さて、どうするかと心配していたところ、意外な救世主が現れた。長野県松本市にある株式会社林友である。林友の担当者が間に入って、信州カラマツを隣の岐阜県にあるセブン工業株式会社に加工して、長野県に戻してエムウエーブの建築に使うとのことであった。この時の担当者は中野さんで、後にも大変お世話になった人である。結果、無事にエムウエーブは完成したのである。

ちなみに、セブン工業のセブンは丸七住研工業株式会社のセブンで、七条郡の地名のセブンからきたと思われる。7時~11時までの営業が由来のセブンイレブンのセブンとは異なる。現在は、長野県内企業である都築木材株式会社経営しているの、結果、長野県内企業で加工したといえるかもですね。

## 【追記】

知っていると思いますが、セブン工業の構造用集成材、小断面構造用集成材工場を廃止して、全てではないが、機械は岡山県、従業員は中京地区ハウスメーカーの集成材工場へ。大阪企業は、奈良県十津川村に膨大な山林を所有していた。大手ゼネコンは、最近も宮城県と木材利用促進協定を結んでいる。信州の構造用集成材工場は、桶樽が発祥の企業。